

# わが校の紹介

地域ぐるみで子どもを守り  
育てる草の根運動展開中

養父市立広谷小学校

校長 西村 良平

本校の沿革誌を開くと、明治6年の上箇小学校開設に始まり、明治15年、広谷小学校と改称して今年で132回目の創立記念日を迎えます。校庭の片隅には、先人の残したメッセージがあります。

「のくさよ ゆきにも  
かせにもまけないで  
つよいな えらいな  
ひろたにっこ  
ぼくら わたしら むねをはり

まゆあげて がんばろう  
ね がんばろう

本校の児童数は、現在177名ですが、この碑文に込められた願いのように、毎日の活動の中にそれぞれ自分の持つ力を伸ばすべく一生懸命頑張っています。

本校では、学校教育目標として、「未来に夢を持ち、こころ豊かにたくましく生きる広谷っ子の育成」を掲げ、保護者・地域の皆さんとの連携を深めながら教育活動に取り組んでいます。

その一環として、先日「安全・安心まちづくりinひろたに」と題し



てイベントを開催し、県警音楽隊・養父中学校吹奏楽部による演奏と郵便局の防犯パトロールバイクの発隊式を行いました。

また、週3回の読書タイムでは、地域の人たちに本の読み聞かせをしていただいたり、多くの学校行事で保護者の皆さんや地域の皆さんにお世話

になりながら、地域ぐるみで子どもたちを守り育てる「草の根運動」を展開しているところです。

今日も多くの人たちに見守られながら、校庭で子どもたちの元気な声が響いています。

## 窓 「不審電話情報」相次ぐ

「養父警察署生活安全課の佐々木です」と電話がかかってきたらどうしますか。

6月15日以降、養父市内の中学生宅を中心に「不審電話」がかかってきたという情報が相次ぎました。不審電話の多くが「養父警察署生活安全課

佐々木」を名乗る女性からのもので、子どもたちの電話番号を教えるように求める内容です。「途中で電話を切ったり保留にすると公務執行妨害で逮捕する」と脅されたりする例もありました。

早速、教育委員会から養父警察署に事の真偽を確かめましたが、養父警察署にはその

ような人物はいないとのことでした。これは、保護者のおられない時間帯をねらったもので、手口が巧妙です。

「親に代わりますので」とか「かけ直しますので、電話番号を教えてください」などとは答えるのも相手に付け入らせましょうか。 (学校教育課)

## まちの文化財 ⑬

### 3階建ての養蚕農家

6月25日から1週間、「うちげえのアートおあや」が養父市大屋町大杉にある、ふるさと交流の家「いろり」などで開催されました。

会場となった「いろり」は、

風格のある切妻造の立派な3階建ての養蚕農家で、平成4年に修繕整備されました。大屋根の上に小さな屋根、越屋根が付いています。これは蚕の飼育に適切な温度や湿度を保つために設置されるもので、地元では抜気と呼んでいます。

また2階と3階の間にひさしが付いています。ひさしの無い養蚕農家も多くありますが、重要なアクセントになっています。

3階の壁は、柱が壁土の中に塗り込められています。これを大壁といいますが、2階も大壁にする農家も多いですが、ここでは1階と2階正面の壁で柱などがみえま



す。これを真壁といいますが、大壁は外気の影響を受けにくく乾燥を保つ壁で、養蚕農家の特徴の一つです。

大杉地区は、平成13年に兵庫県景観形成地区の指定を受け、養蚕農家を基本にした景観形成ガイドラインが作られました。養蚕住宅を景観形成のポイントにしているのは、県下でも大杉だけです。

養蚕農家の屋根は、明治末期から大正期にかけて、茅葺きから瓦葺きに改修が始まりました。この時、小屋裏に床をはって上屋根を長くして壁を作り、3階建てにして蚕室を作りました。その結果、多層造りの外観が生まれました。この手法は、世界文化遺産になっている白川郷の農家と共通する手法だと指摘されています。

養父市は、但馬の養蚕地帯の中心地でした。蔵垣には養蚕農家を復元した上垣守国養蚕記念館もあります。瓦葺き3階建ての養蚕農家が立ち並び風景は、大正から昭和にかけての養父市の原風景となる優れた農村景観です。

(社会教育課)